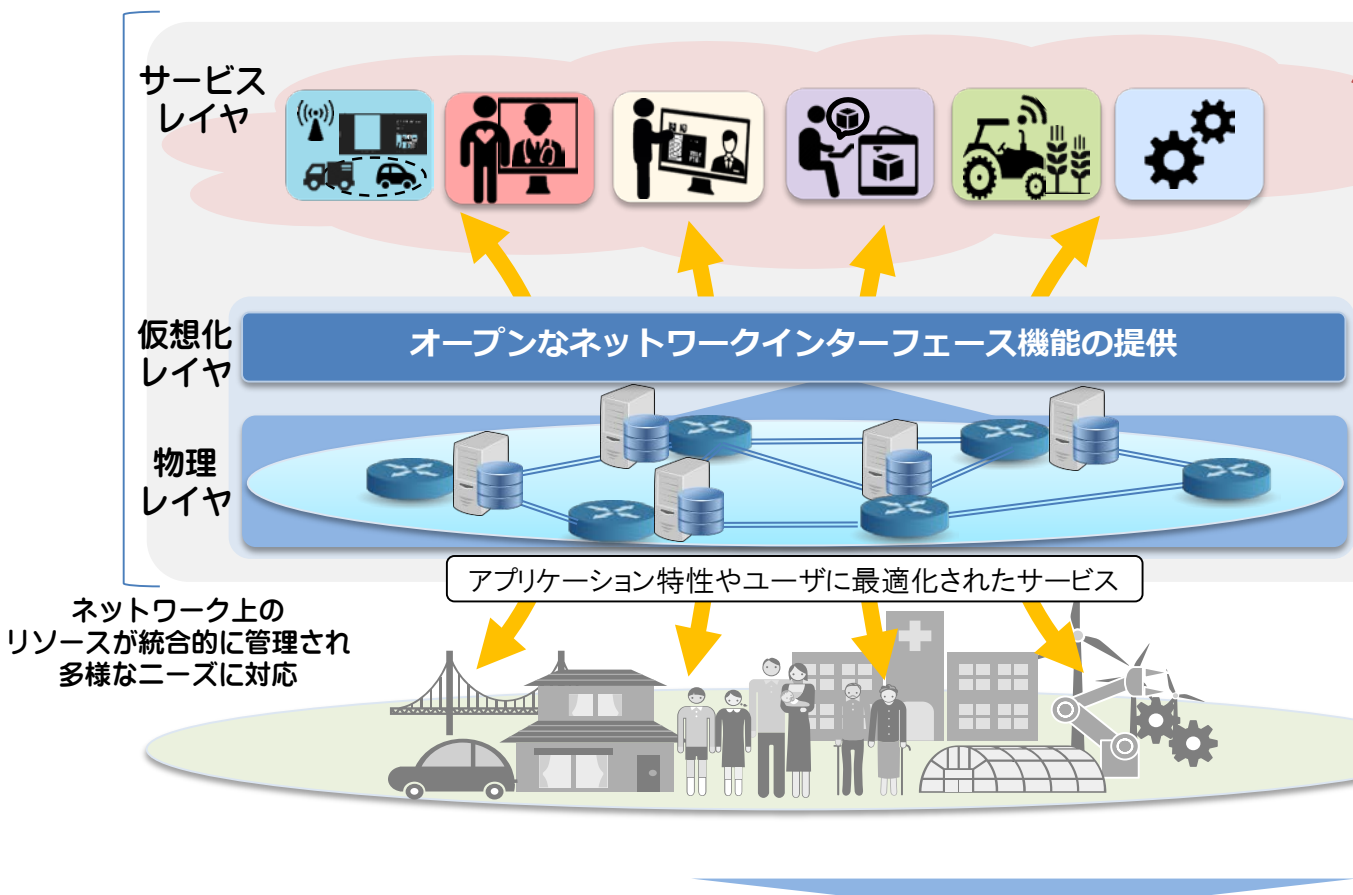


これまでの審議、主査ヒアリングや提案募集の結果を踏まえると、2030年頃を見据えたネットワークビジョンについて、現時点で以下のようなイメージが関係者間で共有されるのではないかと考えます。



- オープンなネットワークインターフェースを通じ、サービスレイヤとネットワークレイヤが相互連携することでサービスと通信の融合が進展する。
- レイヤ内・レイヤ間の自由なデータ流通を通じて、多様なプレーヤによる新たなサービス・イノベーション創出が活性化され、社会的課題の解決に貢献する。
- IP化や仮想化の進展に伴い、設備とサービスや機能の対応関係が多様化し、既存の電気通信事業者やネットワークの単位を越えた、新たなネットワーク管理形態が出現する。
- モバイルサービスの普及・高度化が一層進展する一方で、バックボーンとしての固定網の重要性が増大する。
- ユーザやサービスの多様なニーズ等に対応する、よりオープンで公平なネットワーク環境が求められる。
- ネットワークやその上で提供されるサービスはユーザにとって日常生活に不可欠なライフラインとなる一方で、サービスの内容や提供主体、契約形態は高度化・多様化する。

ネットワークビジョンを共有しつつ、関係者が以下の基本的視座に基づき、必要な方策を検討していくことが必要ではないかと考えます。

- ① 利用者目線に立った自由、公平かつ安全・安心なサービス利用の確保
- ② サービスや事業者間の公正競争を促進するためのオープンなネットワーク環境の確保
- ③ 利用者利益の保護と新たなサービスやイノベーション創出のバランスの確保